

部活動の改革の必要性

校長 安養 貢

城端中学校の校舎はもうすぐ竣工から 38 年を迎えます。城南の丘に建つ立派な校舎は、体育館や武道館、それに市の施設であるスタジアムやテニスコート、屋内グラウンドを含め、さながら私立高校か短大かと思わせられるような恵まれ方です。今年も、その校舎は美しい城南の桜に囲まれ、これまでと変わらない光景が見られました。しかし、内側を見ると、たくさんの変わってきている部分が見当たります。

生徒玄関の下足入れは、一人につき 2 つ、広々と使えます。5 クラスが並んで賑わっていた教室は、現在、各学年 2 クラスで、空き教室は「多目的室」と名を変えて、クラスを分けての少人数授業や生徒の着替え場所として使われています。40 台のパソコンが整然と並んでいた「コンピューター室」は、一人一台のタブレット端末が導入され 3 年目となる昨年度末に、パソコンがすべて撤収され、今年度からは「多目的室 6」として委員会活動等に使われるようになりました。

今年度、城端中学校の生徒数は 167 人です。1 年生から 3 年生まで、すべての学年が 60 名に満たない状態になりました。つまり、1 クラス 30 人にもなっていないということです。今まで当たり前のようにできていたことが、カタチを変えないと成立しなくなってきました。部活動もその一つです。

各競技において大会に出場するための最低人数すら確保できない部がいくつかあります。また、生徒数の減少に伴って教員数も減ってきており、顧問の人数も足りなくなってきました。さらに、地域のクラブがいくつかの競技で展開されるようになり、生徒は自分がやりたい競技を学校の部活動だけから選ぶ時代ではなくなってきました。

南砺市教育委員会が行っている部活動改革では、これまで学校に力点を置いていた部活動指導を地域へと移行していっています。この動きは全国的なものですが、南砺市は、それを中学校の部活動だけの問題にせず、小学校のスポーツ少年団等も含めて、指導者のサポートをしていくことを考えています。部活動指導員やエキスパート、スポーツ少年団の指導者の方々は、子供たちのために自分の生活を犠牲にして時間を費やしていただいています。わたしたち教員とは異なり、地域に根付いた指導者はとても貴重な存在です。市のサポートを受け、競技の指導体制を整え、専門的な技術指導を受けた子供たちが、やがて指導者となる。そうやって、それぞれの競技を支え続けていくことが、将来の南砺市の子供たちにもつながっていくのだと思います。

我が子が、地域の子供達が、自分がやりたい競技を選び、頑張っている姿を見せてくれるのは、とてもうれしいことです。いろいろと負担をかけることもあると思いますが、ぜひ、持続可能な指導体制づくりのために、保護者の方や地域の方々のご理解とご協力をよろしくお願い致します。